

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2792200376		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら南翼		
所在地	大阪府大阪市生野区巽中4-12-35		
自己評価作成日	令和3年7月8日	評価結果市町村受理日	令和3年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年3月1日にオープン致しました。介護保険法に従い認知症によって自立した生活が困難になった要介護状態のご利用者に対して家庭的な環境の中で心身の機能訓練を行うと共に地域住民との交流の元、住み慣れた環境での生活を継続できるようにする事を目指し安心と尊厳ある生活をご利用者がその有する能力に応じて自立した生活を営むことができるよう支援することを目的とします。又、体調変化にも早く気づき医療に繋げております。少しでも笑えて少しでも楽しく生活をお送りできるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人は、グループホームを始め各種高齢者福祉施設や保育園を関東、中部、関西地区に開設し「人の心を大切に、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」を企業理念とし、「心」を大切にサービス、ゆたかさ、ふれあいを掲げ運営している。法人傘下のグループホームは大阪に4施設あり、当事業所は開設して4年を迎えている。家族には毎月、利用者の生活の様子を「生活状況報告シート」や「参加表」に詳細に記載し、写真を添付して送付することや、職員の育成を図るため、年2回の働き方を査定する面接の開催や、「クオリティーマスター」による、毎月の研修会開催と日常的な職員指導により、質の高い介護を目指している。管理者は「職員が自ら考え行動し、利用者・家族にここで良かった」と思ってもらえる事業所運営を目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や身体拘束廃止委員会などで必ず話をした具体的な行動を職員一人ひとりに確認している。	法人の企業理念と運営理念は事務室に掲示するとともに、名刺裏に掲載している。事業所は「情報共有と信頼関係構築」という独自の理念を作成しており、毎月開催する2ユニット合同の全体会議では、理念を全員で唱和し職員への周知と共有を図り、実践に繋がるように努めている。	各種理念は、法人及び事業所が目指している運営に関する基本的な考えや利用者支援の在り方を示すものである。掲示場所は事務室のみならず、利用者や来訪者にも目に付きやすい場所(玄関やフロアなど)への掲示を検討し、広く周知することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩又は買い物途中に行き交う人、地域の方と挨拶を交わしながら歩いています。また、認知症予防食の実施や夏祭りを通じて地域の方がホームに足を運びやすい環境を整備していたがコロナの関係で途絶えてしまっている。	自治会に加入しており、地域の夏祭りや盆踊りへ参加し、事業所の祭りには地域の方の招待や、各種ボランティアの受け入れを行っていたが、コロナ禍で中止している。現在、コロナ感染が収まりつつあり、毎朝の散歩や買い物再開、事業所のチラシを配布する時には、出会う地域の方々への挨拶を交し地域との交流を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナの関係で全て止まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で運営推進会議が実施できていないが2ヶ月に1回は必ず電話連絡し現状報告をしている。	会議は2か月毎に、地域包括支援センター、町会長、社会福祉協議会委員、利用者・家族(約1/3が参加)及び職員で開催している。コロナ禍の緊急事態宣言中は書面審議に変え、電話で意見・要望を集約している。直近では人数を縮小して開催し入居者の様子、介護度の状況、行事報告、身体拘束廃止委員会の報告の後、意見・要望などを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所との連携をとれるよう対応させて頂きます。自治会や老人会の参加を促すよう指摘を受けました。	生野区の担当課とは必要書類の提出を始め、生活保護受給者へのケースワーカーの受け入れや必要書類の提出などの支援を行っている。地域包括支援センターが主催する2か月～3か月毎の区内のグループホーム連絡会がコロナ禍で中止になっているが、再開すれば積極的に情報交換を図り事業運営に活かしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し年4回以上の研修を開催している。	「身体拘束廃止委員会」を2か月毎に全職員が参加して開催している。身体拘束及び高齢者虐待の研修は年2回以上開催しており、毎月開催する全体会議ではスピーチロックの無いケアに向けて職員間で話し合っている。利用者の転倒防止として家族の同意を得てセンサーの設置が2例、ベッドを外し床に布団を敷いている利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を発足し年4回以上の研修を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し関心と理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明と時間をかけた契約を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、苦情箱を設けています。運営推進会議にて質問等があった場合は丁寧な説明を心がけています。	利用者・家族からの意見・要望は、入居者の約1/3が参加する運営推進会議や、家族の面会の時に把握している。面会頻度が少ない家族には電話をかけて把握している。毎月写真を添付した「生活状況報告シート」や「参加表」を送付し利用者一人ひとりの暮らしている様子を解りやすくまとめて送付しており、家族との信頼と安心を築くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施しています。 又、ちょっとした立ち話をする中でも伝えていけるよう心掛けでいる。	管理者は、毎月開催する全体会議とユニット会議や職員の休憩時間などに気軽に声掛けして意見・要望の把握に努めており、職員は何でも言える状況にある。事業所にはクオリティマスターを配置し職員研修によるスキルアップや利用者への介助の改善に繋げている。職員から事業所前の花壇の活用の提案があり対応している例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与に関しては個人別にフィードバックしている。何が良くて何が足りないかなども本人へ話し理解を深めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として毎月研修を実施。外部研修の推進受講料補助等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が概ね3か月に1度実施されているがコロナの関係で参加できていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや本人の気持ちを理解すべくコミュニケーションに時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子の電話連絡は随時実施しております。毎月1回は1か月の状況報告を書類にてご報告させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	キメ細やかにヒアリングを実施し気持ちの変化や体調の変化に合わせて迅速な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様から教えを乞うことを念頭に置き支え合って生活させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様にホームでの様子や体調についてお話させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様をはじめ親戚や友人の訪問を時間限定せず随時訪問して頂いている。現在はコロナの関係で面会時間は設定している。	利用者の多くが事業所の近隣に居住していたことから、毎日の散歩や食材の買い物で外出するときに、馴染みの人や自宅、以前働いていた工場などをコースに入れ、利用者に声掛けしながら馴染みの継続支援をしている。コロナ禍で外出や馴染みの人の面会を自粛してきたが、外出を緩和し、面会は予約制で時間を制限した対応を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようさり気なく声をかけさせて頂いています。また、必要な事を居室内で完結しないよう極力リビングにて過ごして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後1か月後に電話連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きして実現できるよう支援させて頂いています。職員のみで実施が難しい時はご家族様にもご相談させて頂いている。	入居時に利用者・家族から思いや意向を把握するとともに、職員は常に利用者に声掛けを行い把握に努めている。把握が難しい利用者に対しても、声掛けをして表情や声のトーンの違いを観察し把握に努めている。把握した内容は職員間で都度話し合い、記録をタブレットに入力し職員間で共有して利用者一人ひとりの支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行きたい場所や食べたい物の聞き実施できるよう支援させて頂いている。また、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間に制限を設けず自由に過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月実施されるカンファレンスにて反映している。都度、情報共有し全体に周知している	入居時に利用者・家族から生活歴や要望を詳細に把握し、医者や看護師からの助言を得て、長期計画1年、短期計画半年の支援目標を家族の同意を得て作成している。モニタリングは毎月行っているが、半年毎の計画見直しの際には、利用者・家族の意向を改めて把握し、計画に反映して利用者支援に繋げている。	職員はタブレットにより、日々の支援状況を入力し職員間で情報共有をしているが、介護計画に対して、日々の支援内容が適切に実施されているのかをより明確に確認できるように介護計画のサービス内容と日々の介護記録と連動した仕組みを検討され実施することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を丁寧で正確な情報にできるよう努力している。又、連絡帳や会議録で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの関係でどこにも行けていないができる事は家族様にも協力を求め対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や飲食については地域のお店を利用。神社や散歩には近所を利用。散歩中はすれ違う人に挨拶の実施をしていたが現在はできておらず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2度の往診あり。また、急な体調不良には24時間オンコールにて対応させて頂いている。	入居時に利用者・家族等の納得を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。4月に全利用者の同意を得て、新たにホームクリニックに変更した。月2回医師の訪問診療、希望者への歯科衛生士による週1回の口腔ケアと理学療法士によるリハビリ治療がある。さらに、看護師の週1回訪問と24時間オンコールで利用者と家族等の安心を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問と体調の変化についてはホーム側からの連絡を24時間オンコールにて対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室とのコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為の指針を示しています。重度化した際には早期に家族様と十分に話し合いを重ね医療関係者とチームで支援できるよう取り組んでいる。	入居契約時に重度化に向けた指針を説明し、利用者・家族等の同意を得ている。終末期には、医師から説明を受け家族等が事業所での看取りを希望すれば、医療関係者とケアチーム連携による看取りに入る。最近2件の看取りがあり、ユニットの全職員がケアに当たったが、コロナ禍の最中で、家族にとって満足できる最期であったか少し心残りがあるという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生のマニュアルに従い訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回以上の研修、又は訓練を実施しています。	事業所にとり水災害が最も懸念されるという。ハザードマップではいずれの水災でも水位は1m未満で、2階への垂直避難を想定している。避難訓練は、毎年3回実施(水害、火災、夜間火災)している。建物は築年数が浅く、家具等の転倒防止が行われ、調理器具もIH(電磁)であり、備蓄品も食品は2週間分あり、地域との協力関係が進めば万全の体制と云える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し配慮する言葉かけや対応を実施させて頂いている。	事業所では、特にスピーチロックに配慮している。利用者に正しく声掛けができていても、職員間で時折グレーな対応が見られ、管理者は全体会議等で職員に考えて貰う機会を設けている。また、法人では各事業所にQuality Master(リーダー格で介護福祉士)を配置し、毎月の研修に注力している。また、排泄と入浴の場でのプライバシー配慮を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし自己決定できるよう務めさせて頂いている。1日に1回はお一人、おひとりゆっくりお話しさせて頂いている。自己決定できない方は家族様に意見を聞き柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の昔からの生活、環境を把握し個人にて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様、家族様からの情報を元に要望に応じ対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事や外食の提供。また、食材選びなど楽しい食事ができるよう心掛けています。	食材を買い出し、冷蔵・冷凍庫等に保管し、各フロア当番が保管の食材を確かめて当日の献立を決め、家庭料理を作るユニークな事業所である。職員には負担が増すが、利用者の好みに応じた料理を提供できるなど評判は良い。調査員も昼食を頂いたが、見た目も味も満足した。コロナ禍で外食は出来ないが、行事の際に出前を取るなど工夫が見られる、	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供している。水分も1000CCを目安にしている。お茶や牛乳など制限がない限りは自由に選び飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問するのでその際に一人ひとりに対応したケアを指導して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレへの誘導、利用を促しています。	日中は、ほぼ全利用者が紙パンツ(リハビリパンツ)で過ごしている。日常、利用者が可能な限りトイレで排泄ができるよう、排泄表や仕草の観察により支援している。失禁することを減らした結果、皮膚トラブルの改善が見られた利用者もいる。夜間も、安眠のためのおむつ使用以外にも、巡回やナースコールによりトイレへの誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を日課とし運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の状況や希望により入浴している。拒否が続いた場合は声かけや様子を見ながら入浴して頂いている。	週2回午前中の中の入浴が基本であるが、行事や利用者の都合に合わせて臨機応変に運用している。浴室は、一般浴槽であるが手すりやシャワーチェアを備え、利用者が安全に入浴できるように配慮している。必要に応じ、二人介助で入浴支援している。入浴剤の使用やゆず湯で利用者が少しでも入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や換気、温度等に配慮し本人様が眠くなった時に就寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カートを使用し間違えのないよう支援しています。時には薬剤師によるお薬の説明を受けたり情報の理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇の過ごし方について本人様の希望にて自由にお過ごし頂いてまいります。コロナでできない事が増えましたがホームで何かできるようレクリエーション、行事として取り入れてる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出ができていない。	コロナ禍で特に緊急事態宣言中は、法人の指示で外出を制限している。そのため、利用者の体重増加や脚力低下を心配する家族等の声もあるが、11月からは面会の緩和も始める予定で、状況を見ながら徐々に事業所周辺の散歩から再開することを検討している。また、室内での行事やレクリエーションを増やすことで利用者のストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物の支払いの際は入居者様にお支払いをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきで暑中見舞いや年賀状を作成しています。電話も自由にお使い頂けるようリビングにて設置させて頂いています。また、コロナの影響影響で面会ができない時は電話で本人様、家族様を繋いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるよう配慮しています。またソファーでのお昼寝も自由にできるよう対応させて頂いています。	居間・食堂の共用部は、風通しや除菌加湿器設置などで室内環境に調整している。2階廊下の突き当りにはスタンドグラスを模した飾りがあり、自然と足を運ぶよう考えられており、歩行リハビリに繋がる工夫がされている。廊下の両壁には、写真ギャラリーや季節毎の作品が上品に飾られており、訪問者にとって興味を引くものに仕上がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長椅子等を配置し思い思い過ごせるよう対応させて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様のご希望をお聞きし家具等を配置させて頂いています。	居室には、ベッド・クローゼット・エアコン・防災カーテン等が予め用意され、利用者にはこれまでの環境を継続できるよう愛用家具類の持込を推奨している。利用者は、お気に入りの身の回り品や家族の写真を持ち込み自分の城を築いている。安全確保のため、床に布団を敷く利用者や家族の同意を得て、事業所がセンサーを設置しているケース(2例)もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの利用や洗面は自由にお使い頂けるよう衛生的に管理させて頂いております。		